

場所：
学級：
日時：

1. 単元

- （大単元）第1編 私たちの生きる社会
- （中単元）1. 地球環境問題
- （小単元）環境問題への国際的な取り組み

2. 使用教材

- 高等学校『改訂版 現代社会』（第一学習社）
- 『新版 現代社会資料集 2019』（第一学習社）

3. 単元概

本単元は教科書の最初に位置し、現代社会という科目の導入部に当たる。現代日本を生きる我々は国境や地域の枠組みを超えて、地球規模の諸問題に対処していかなければならない。本単元は、自然環境やエネルギー資源、情報技術といった従来の国や地域の枠組みでは捉え切れない諸課題を扱っている。そのため、グローバル化の進行する現代社会とそのさらに未来を生きる生徒が前述した課題を捉え、現代社会という科目の学習を進めていく上で適した項目である。

4. 教材概

本教材では、「国連人間環境会議」を筆頭に環境問題に対する国際的な対策とその流れを取り扱っている。覚えるべき事項が多く混乱しやすい箇所であるが、前時までに学習した地球環境問題に対して世界でどのような取り組みが行われているのかを知り、その理念を踏まえて生徒自身がどのように行動していくべきであるのかを考えるために適した項目である。

5. 指導概

本時で取り扱う内容は教科書の順に従えば、第2回目の項目である。しかし、前時までに「環境倫理」の考え方に代表されるような地球環境問題に対する捉え方を学んだ上で具体的な対策と関連づけながら環境問題の事例を扱うよう指導計画を立てたため、第3回目の授業となる。本時では中間審査範囲内の内容も参照しながら、環境問題が生徒たちの生きる未来にどう影響するのか考察したうえで、持続可能な社会を実現するための対策として世界ではどのような取り組みが行われてきたのかを整理し、学習する順序で展開する。また、前時までと同様に生徒の理解度を測るため、リフレクションペーパーによる振り返りを活用し、知識の定着を図るために復習プリントを配布する。

6. 生徒概

本学級は、授業中の発言内容やリフレクションペーパーの記述内容などを踏まえると、同学年の1類の中でも知識事項の定着度、理解度ともに高い水準であると思われる。しかし、回答内容は正確であるものの、回答する時間が他学級と比べても多少かかっている印象がある。そのため、発問の内容や量を調節し、じっくりと考える時間を設けながら授業を展開したい。

7. 指導計画

- ① 将来世代に受け渡したい環境（講義型）（1時間）
- ② 地球温暖化の防止に向けた取り組み（講義型）（1時間）
- ③ 環境問題への国際的な取り組み（講義型）（1時間）（本時）
- ④ 進行する砂漠化/海洋汚染（講義型）（1時間）

8. 本時の主題

- ③ 環境問題への国際的な取り組み（教科書 p13-14）

9. 学習目標

- イ) 「国連人間環境会議」「リオ宣言」など本時及び本単元の基礎となる用語・事項を知る。【知識】
- ロ) 教科書や資料集に書かれた情報から発問の答えとなる内容・関連する内容を検索することができる。【技能】

- ハ) 教科書や資料集に書かれた情報から発問に答え、自分の考えを伝えることができる。【思考・判断・表現】
 ニ) 前時までの学習を踏まえ環境問題へ国際的な取り組みに関心を持ち、自分の考えを持つことができる。【関心・意欲・態度】

10. 評価

① 評価の観点

- イ) 「国連人間環境会議」「リオ宣言」など本時及び本単元の基礎となる用語・事項を知ることができたか。【知識】
 ロ) 教科書や資料集に書かれた情報から発問の答えとなる内容・関連する内容を検索することができたか。【技能】
 ハ) 教科書や資料集に書かれた情報から発問に答え、自分の考えを伝えることができたか。【思考・判断・表現】
 ニ) 前時までの学習を踏まえ環境問題への国際的な取り組みに関心を持ち、自分の考えを持つことができたか。【関心・意欲・態度】

② 評価の方法

- i. イの項目についてはリフレクションペーパーの記述内容によって評価する。
 ii. ロ、ハの項目については授業中の発問に対する応答及びリフレクションペーパーの記述内容によって評価する。
 iii. ニの項目についてはリフレクションペーパーの感想欄に基づいて評価する。

③ 評価の基準

- i. イ、ロの項目についてはリフレクションペーパーの記述と授業中の説明との整合性が高いものを高評価する。
 ii. ハの項目については授業中の発言の内容が、定型的な表現によるばかりでなく仮に教科書の内容に照らし正答でないとしても自分なりの考えを伝える言葉で表現できることを高く評価する。
 iii. ニの項目については授業を受けての感想、疑問を詳細にかつ具体的に記述していることを高く評価する。但し、関心が根付いているかどうかを本時のみで判断するのは不適当なため、前時まで及び次時以降の内容との照合によって総合的に評価する。

11. 指導過程

時配	学習内容	学習活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
導入A (5分)	前時の復習	号令・出欠確認 リフレクションペーパーを受け取る。 前時の重要語句プリントを受け取る。	号令・出欠確認 リフレクションペーパーを返却・解説する。 前時の重要語句プリントを配布する。	
導入B (15分)	復習 「Q1のまま環境問題が改善されないか? 今日までの授業をもとに考えてみよう」	例示された PowerPoint を見ながら地球環境問題や前時までの学習内容を思いだし、次時以降の学習内容についても意識する。 3~4名程度の班に分かれ、班活動プリントを受け取った上で Q1 について班で考える。 班での8分程度の話し合いののち、Q1の回答を各班代表者1名が発表する。 予想される答え 地球温暖化：海面の上昇 オゾン層の破壊：紫外線の増加 熱帯林の破壊：砂漠化、生物の減少 酸性雨：森林の破壊 etc. 発表を聞く際も適宜メモを取る。	PowerPoint に環境問題を例示し、前時までの学習内容を生徒に意識させる。 3~4程度の班わけに基づいて机を移動させ、代表者に班活動プリントを配布する。 班内で考える時間を8分程度とったあと、5分程度で回答を各班代表1名に発表させる。 その後、展開への接続として Q1 を総括する。	→砂漠化、海洋汚染、廃棄物汚染については未習範囲である。 →中間考査の内容を含むため、教科書やノートを閉じて答えさせる。 →班活動に際し、書記、司会、発表者は出席番号の早い生徒から順番に割り当てる。

		教室の状態を復帰し Q1 についての教師の総括を聞く。		→各班に通し番号を割り当て、環境問題の分野ごとに別れて考えさせる。 →活動の時間は生徒の反応によって短縮・延長する。 →生徒に話を聞く態度をつくらせる。
展開 (20分)	本時のキーワードの提示 国連人間環境会議 (教科書 p13, 資料集 p20) かけがえのない地球 (only one earth) 人間環境宣言 UNEP (国連環境計画) 国連環境開発会議 (地球サミット) (教科書 p13, 資料集 p20)	PowerPoint を見ながら本時のキーワードを意識する。 PowerPoint をノートに転記しながら教師の説明をメモする。 教科書 P18 の脚注 1 に注目して教師の説明を聞き、必要に応じて各自でメモを取る。 資料集 p21 に注目し、教師の説明を聞く。 PowerPoint をノートに転記しながら教師の説明をメモする。	PowerPoint に本時のキーワードを提示し、生徒に本時の授業内容への注目を促す。 「国連人間環境会議」は環境問題が初めて議論された会議であることに触れながら PowerPoint を提示する。 人間環境宣言について教科書 p13 の脚注 1 に即して、説明する。 資料集 p21 「UNEP の取り組み」に注目させながら UNEP が環境問題への取り組みに関して中心的な役割を担うことを説明する。	導入 B は環境問題が現在も進行している地球規模の課題であることを生徒に再認識させるための課題である。 この課題は同時に、前時までの学習内容を本時の学習内容である環境問題への国際的な取り組みへと繋げることを目的としている。 →「スローガン」の語義についても説明を加える。 「かけがえのない地球」については教科書 p6 にも記載があることに触れる。 「創造物」「形成者」などの語義についても説明を加える。 UNEP の語義についても説明を加える。

<p>リオ宣言 アジェンダ 21 「持続可能な開発」</p> <p>「環境・開発サミット(教科書 p13, 資料集 p21)</p> <p>リオ+20 (教科書 p13, 資料集 p21)</p> <p>まとめ</p>	<p>教師に指名された 1 名が「気候変動枠組み条約」の内容についてノートなどを参照しながら学習した内容を答える。 予想される答え: CO₂を減らす条約</p> <p>PowerPoint をノートに転記しながら教師の説明をメモする。</p>	<p>「持続可能な開発」について教科書に即して、開発は地球環境の維持の範囲内で行うことであると説明する。</p> <p>『「気候変動枠組み条約締約」はどんな内容だった?』と発問し前時の授業内容を思い出させる。</p> <p>資料集 p21 に注目させ、環境・開発サミット及びリオ+20の開催目的の内容を説明する。</p> <p>環境に関する首脳会議が開催されている場所やそれぞれの特徴を説明しながら PowerPoint を表示する。</p>	<p>「アジェンダ」「21」「サミット」の語義についても説明を加える。</p> <p>→気候変動枠組み条約については既習スライドのため、筆記の時間を取らない。</p>
<p>結末 (10分)</p>	<p>本時の振り返り</p> <p>リフレクションペーパーの問題に取り組む、自身の理解度を確認する。 その後、授業に関する感想、質問などを記入する。</p>	<p>リフレクションペーパーを配布し、教材をかたづけさせた上で問題に取り組ませる。 語句復習プリント・PowerPoint を印刷したものを配布する。</p>	<p>配布する PowerPoint 資料は特にノートへの転記に時間を要すると予想される箇所に留める。</p>

12. 板書計画

PowerPoint を利用。(別紙)

13. ご講評

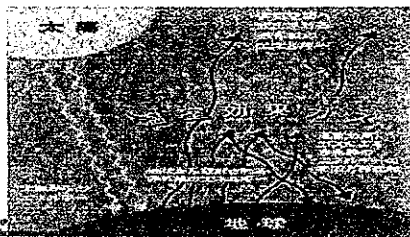
環境問題 (第3回)

教科書p12-18

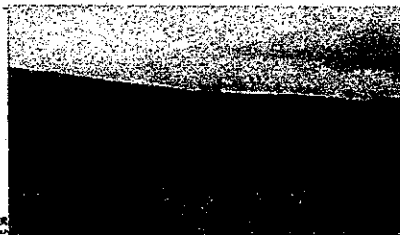
環境問題への国際的な取 り組み

教科書p13-14

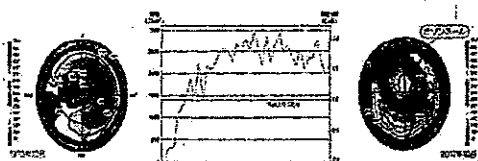
地球温暖化



酸性雨



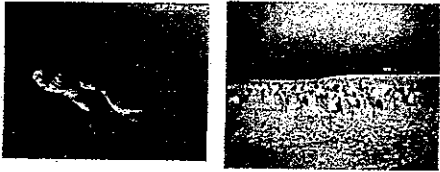
オゾン層の破壊



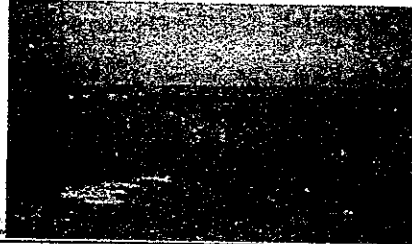
森林破壊



生物種の減少



砂漠化



海洋汚染



Q1

- このまま環境問題が改善されないとどうなるか？
- 今日までの授業をもとに考えてみよう

今日のキーワードは4つ

- ①国連人間環境会議
- ②国連環境開発会議

今日のキーワードは4つ

- ③環境・開発サミット
- ④リオ+20

①国連人間環境会議

1972年：
スウェーデンのストックホルムで開催
スローガン：「かけがえのない地球」
(only one earth)

人間環境宣言が採択

これを実現するために…
→UNEP (国連環境計画) の
設立 (資料集p21)
(例) バーゼル条約など

②国連環境開発会議

別名：地球サミット
1992年：ブラジルのリオデジャネイロ
で開催

リオ宣言が採択

基本理念：持続可能な開発
これを実現するために…
・アジェンダ21が設定
・気候変動枠組み条約が採択

気候変動枠組み条約

1992年：採択
目的：
温室効果ガス (CO₂ など) が安
定した状態になること

③環境・開発サミット

2002年：南アフリカ共和国のヨハ
ネスブルクで開催
正式名称：
「持続可能な開発に関する
世界首脳会議」

目的：

アジェンダ21の成果を検証すること

しかし…

目立った成果は出ていない

④リオ+20

2012年：ブラジルのリオデジャネイロ
で開催

正式名称：

「国連持続可能な開発会議」

まとめ

①国連人間環境会議（1972）

②地球サミット（1992）

③環境・開発サミット（2002）

④リオ+20（2012）